

※2020（令和2）年3月に実施予定の「江戸流しびな（3/1）・「岩槻流しびな（3/1）」・「京都流しびな（3/3）」はすべて、厚生労働省の新型コロナウイルス感染症に対する基本方針に基づき、開催中止となりました。

首相官邸のおひなさま

今年も桃の節句を前に、2月12日㊦から3月3日㊧まで、首相官邸のエントランスホールにひな人形十五人揃が飾られた。2003（平成15）年から毎年展示され、今年で18回目となる。

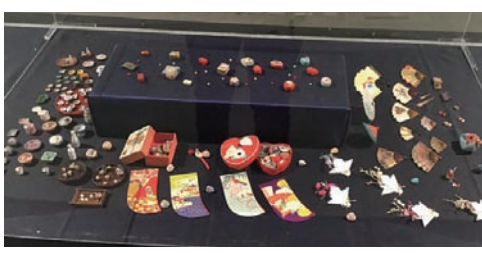
また、日本経済新聞のWeb版〈日経電子版〉サイトの「写真で見る永田町」2月27日付でも紹介された。



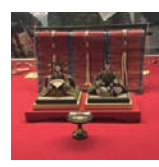
ひな人形の展示が18年前から恒例であること、閣議や会議で訪れた閣僚や官僚が足を止めたり、目を向けるなどをしてしている様子、設営のタイミング、毛氈の紋、英訳付の説明書が添えられていること、鯉のぼりや五月人形も飾られるなどの文章とともに、写真で紹介している。

一般社団法人 日本人形玩具学会

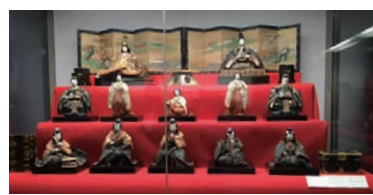
（一社）日本人形玩具学会では毎年、日本各地のひな人形展を見学している。今回は東京国立博物館（東京）、遠山記念館（埼玉）、致道館博物館（山形）などを巡った。



致道館博物館
「和み」
山形県鶴岡市家中新町 10 - 18



遠山記念館
「雛の世界」
埼玉県比企郡川島町白井沼675



東京国立博物館
「おひなさまと
日本の人形」
東京都台東区
上野公園 13 - 9



十軒店（じっけんだな）の石碑



3月3日㊦、東京都中央区の「海老屋美術店」の一角に、十軒店跡を示す石碑が建てられた。室町テラスの再開発に伴い、従来中央通りに面して建てられていた「十軒店跡」のプレートが撤去されてしまったことがきっかけ。海老屋の主人である三宅正洋氏と日本人形文化研究所の林直輝所長のアイデアで建立が決まり、十軒店の十（10）にちなんでほかの8名の有志を募った。建立発起人は、林氏と三宅氏。協賛は、赤池正明氏、圓佛須美

子さん、大山快彦氏、岡村美佐子さん、川内由美子さん、小林すみ江さん、三田覚之氏、山田徳兵衛氏。

石碑は、静岡の石工の名人が製作した、見事な仕上がりになっている。

人通りの多い室町三丁目南交差点に面した好立地。再開発による景観の変化をもとめず、永く日本人形の歴史を静かに語りつづける重要なシンボルとなることは明白である。建立に関わった10人の有志の皆さまには、感謝の念がたえない。



十軒店跡

この地は江戸時代より十軒店と呼ばれ、正月の羽子板・破魔弓、三月の雛人形、五月の武者人形など節句用品を商う店が軒を連ねて時季には盛大な市が立った。原舟月や川端玉山ら江戸の人形師に加え近代には永徳齋、玉翁などが名工として知られたが関東大震災と戦災により多くの店が焼失、最後まで残った玉貞人形店も平成十年代に閉店した。昭和七年、十軒店町は室町三丁目に編入された。日本の人形文化を育んだ町、それが十軒店であった。

令和二年三月三日

当日集った有志の方々。左から圓佛さん、川内さん、小林さん、三宅氏、山田氏、林氏、大山氏



江戸では、十軒店をはじめとし、尾張町、茅町、麴町、駒込、池之端などで雑市が開かれた。特に日本橋十軒店のにぎわいは格別であった。店は、現在の日本橋室町三丁目あたりの中央通りの両側にあった。

絵に描かれている店は、三蓋松が幕に描かれていることから現在の吉徳の支店であるとされる。雲のなかには「内裏雛人形天皇の御宇かとよ」との芭蕉の句が。



「江戸名所図会」
十軒店雑市 長谷川雪且画
天保三年（1832）刊